

「低コスト造林」への取り組み

【視察研修開催】

9月16日～17日、花巻地域林業関係者の視察研修を開催しました。久々の研修開催のためか、出席者は少な目の15名です。

研修先は、宮城県農林種苗農業協同組合が行っている、「コンテナ苗の生産」と山形県新庄市の「ナラ枯れの状況」についてです。新たな取り組み、話題性のあるものを選定いたしました。

【研修の成果】

コンテナ苗による低コスト造林
森林所有者は、育林コストに見合う販売収入を得ていないこと。これを改善するためには、地拵、植付、下刈までの造林初期費用を削減する必要があること。このことにより、所有者の立木販売収入を確保する必要があることを痛感いたしました。

コンテナ苗は試験栽培の段階であり、流通までに数年を要すると見込まれることから、当面、通常栽培の苗木を利用した低コスト造林を検討したいと思います。
ナラ枯れ
山形県最上総合支庁の担当の方から説明いただきましたが、一旦

ナラ枯れ被害が発生すると、予算的な面、労働力の面から対処のしようがないというのが現実のようです。

被害は、高齢級のミズナラに発生していることから、30年ぐらいで伐採し、萌芽更新により更新を図ることが対策として有効であるとのことでした。

【研修成果の活用】

今回の研修は、普及指導上重要な事項であるため、普及に努めたいと思います。

とりあえず、「低コスト造林」については、別添PDFの資料を作成し森林所有者の皆様へ普及することとしております。

【普及の手法】

林家ファイル対象者等への個別指導等、管内の林業関係者の関心度を高めていく必要があります。このため、近々設立予定の「花巻市森林組合青壮年部」の検討テーマとして取り組むことや来年2月頃に開催予定の「第2回花巻地域林業雑談会」等において話題提供したいと思います。

低コスト造林への取り組み

(森林所有者の、適正な立木販売収入を確保するために！)

花巻総合支局農林部林務課

【なぜ低コスト造林に取り組む必要があるのか？】

材価が低迷する中、森林所有者の立木販売収入を増加させるためには、搬出コストの低減等と併せて、所有者自らの努力で対応できる、育林コストの低減に取り組む必要があります。

【どんな効果があるのか？】

スギ 50 年生の人工林 1 ヘクタールを育て上げるには、200～250 万円の費用がかかっております。

費用の内訳を見ると、地拵、苗木代、植付、下刈（5 年）までの造林初期費用で 175 万円程度となります。

これまでは、1 ha 当たり 3,000 本植栽を標準としていたところですが、この植栽本数を 1,000～1,500 本程度にすること、地拵を必要最小限にとどめること、下刈は「つぼ刈」を行うことなどにより費用を大幅に削減することが可能になります。

コンテナ苗（苗高 90 cm）を 1 ha あたり 1,000 本植栽する疎植を行った場合、造林初期費用を 64 万円程度に大幅に削減することが可能であるとの試算があります（宮城県農林種苗農協組合長 太田清蔵氏）。

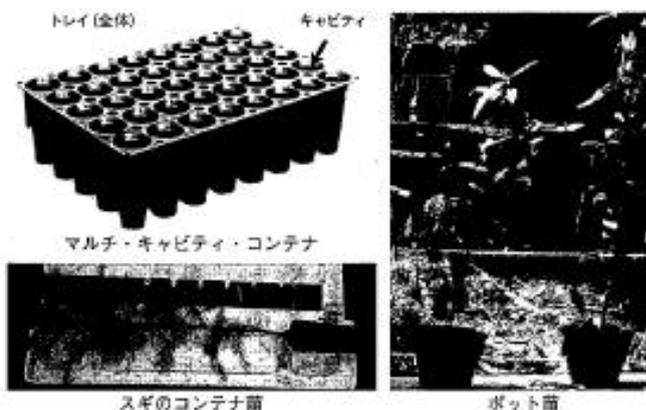
これは、コンテナ苗に限らず、通常の苗木を植栽し植栽本数を減らした場合でも同様の効果を期待できます。

【全国での取り組み状況】

全国的に人工林伐採跡地がそのまま放置されている問題があります。



コンテナ苗ハウス内栽培状況



これは、伐採経費で再造林経費を捻出できないことが大きな要因となっております。
また、間伐で思うような収入がないこと、建築様式が変わり無節材の需要・優位性が低下してきていること等もあります。

このため、1 ha 当りの植栽本数を 1,000～1,500 本程度にし、造林初期経費を少なくする取り組みが九州地域の篤林家等で実施されております。

現在、森林整備事業で補助金をもらうためには、1ヘクタール当りすぎの場合 2,000 本以上、赤松は 2,800 本以上、カラマツは 1,800 本以上を植栽する必要があるなど、今後、解決していかなければならない課題もありますが、造林を行う場合の選択肢の一つとして、低コスト造林の実現に向けた取り組みを行う必要があります。

【コンテナ苗とは？】

全国に先駆けて、宮城県農林種苗農業協同組合が取り組んでいます。

試験植栽を行い、データ収集等生育状況を観察中です。

岩手県の寒風害に耐えることができるか等について、検討を行う必要があります。

【コンテナ苗の特徴】

苗が原因となる生育不良、風倒、枯死の危険性が極めて低い。

多数の孔のある容器を使い、床替え、根きり、除草作業が不要なので、育苗作業が著しく向上する。

小規模から大規模まで、あらゆる育苗作業に対応できる。

育成済の苗の長期保存が可能で、手間もかからない。

小型軽量なので、運搬、植付の作業効率が著しく向上する。

((独)森林総合研究所 山田)

【その他】本題とは関係のない、赤松の育成に関する試みです。

(赤松の輪生節の発生を抑制する)

(人為で二股の高級松を育成する)



【輪生節対策試験】



【双龍育成試験】